

オブジェクトプログラミング最終課題

課題

例に挙げたような身の回りにある情報システムを一つ考えて、自分の出来る範囲で実装し、それについての分析をなさい。特に思いつかない場合は、例に挙げたシステムを実装しても構いません。プログラムは第 11 回までで範囲で扱った CUI で実装してください。規模としては確認問題で実装してもらった健康管理のプログラムぐらいのもので結構です。

(例) () 内は目安となる難易度です

- ・ 中学校における生徒の 5 教科のテスト結果を管理するシステム (易しい)
- ・ サークルの名簿を管理するシステム (中くらい)
- ・ レンタルビデオにおけるビデオ貸し出し管理システム (難しい)

< レポートの書き方 >

プログラムの評価時間は限られているので、あなたの作ったプログラムが、ソースコードを全て読まなくても、設計が分かるようにする

ポイント 1 目的の階層構造を書く(必須)

授業で学習したように、大きな目的が分らないと、小さな目的のプログラムの意図もわからなくなります。評価者が効率よくプログラムを読むことが出来るように工夫してください。

(例えば、あまり細かく書きすぎると逆効果です)

ポイント 2 図(UML)を利用する(任意 手書きでもよい)

評価者は UML が読めるので、正しく記述してあれば、プログラムを短時間で伝えることが出来ます。

何故そのように設計したかを明らかにする

オブジェクト指向の設計に「正しい」答えはありません。

授業では、状況に応じて利点を吟味し、なるべく利点を生かした設計にする方法を学習しました。ですから、「何故」そのような設計になっているのかを記述してください。

実行結果を載せる

自分が作ったプログラムを実行した結果の画面の様子をレポートに明記してください。結果画面は複数で構いませんが、自分のプログラムが実現している機能が分かるものをレポートにしてください。

最後に、ソースコードを載せる(必須)

< レポートの章立て例 >

1. 企画(プログラム)の概要
2. 実行結果
3. 設計に関する解説
- 3.1. 目的の階層構造

3.2. プログラムの設計

3.3. 設計を適用した理由

4. プログラムで工夫した点と考察

5. 授業に対する感想

6. ソースコード

7.

提出方法

1. A4 のレポートを大岩研究室 (308) に設置されている提出ボックスに提出

2. ソース(Java ファイル)とレポートを保存したファイル(doc,txt など)を、
圧縮して一つのファイルにし、メールに添付して提出

アドレスは objprog02-final@crew.sfc.keio.ac.jp です

* メールとレポート両方にログイン名、名前、学部、学年、学籍番号を必ず書いてください。

* メールのサブジェクトはいつも通りログイン名をお願いします。

* メールとレポートで内容が重複しますが、採点作業の効率化のためにこのような形式をとっているため必ず両方提出してください。

提出期間

レポート(紙): 7月19日(金)・20日(土)・22日(月)

[提出ボックスが置いてある間]

ソース(電子メール): 7月22日(月) 23:59 まで

<全体としての評価基準>

日々の課題点 50%

最終課題 50%

<最終課題の評価基準>

プログラム点

50%

ソースコードの可読性 30%

(授業で取り扱った、読みやすいソースコードを書くための工夫が行われているかどうか)

プレゼンテーション点 20%

(企画の面白さ・実現したい機能が本当に動いているかどうか)

動作することが前提

レポート点

50%

記述が明確であること 25%

(読みやすさ、わかりやすさ 等)

内容 25%

(UML 図,設計で工夫してある点 等)